

以下の通り、業務報告させていただきます。

## I 第 21 回大会(龍谷大学) 2019 年 6 月 1 日(土)、2 日(日)

### 1.参加者数等について

- ・筒井・第 21 回大会(龍谷大学)実行委員長からのメール(20190603)より作成。
- ・参加者約 230 名、基調講演とシンポジウムへの一般参加者約 40 名。総会への出席者も例年より多かったとのこと。
- ・「新たに組み込んだこと、組みめなかったこと、また成果や残された課題など次回開催の準備をされる方々へお伝えしていきたいと思います。」

### 2.大会予算について

- ・李・第 22 回大会(駒澤大学)実行委員長からの問い合わせに対する早瀬副会長からの返信メール(20190629)より作成
- ・年次大会の収支を独立採算(要は収支均等)とすることを目指した。
- (予算) 収入合計 1,606,000 円、支出合計 1,665,600 円、収支差額 59,600 円。新入会員の参加費無料化により、会費収入増を図ることとした。
- ・大会開催経費は、基本的に参加費収入、懇親会参加費収入、それに大会開催校からの助成金等でカバーするように努力した。
- ・筒井理事のご尽力により、会場費が無料となった上に、38 万円もの助成金を大学から得られた。
- ・参加者も、事前告知が開催日の 2 か月半を切ると集客力が下がるという経験則をふまえ、できるだけ早い告知に努め、また Facebook などにより非会員への周知にも努力し、参加者数の回復が実現できた。
- ・小田切事務局長も関西在住で、旅費などもかなり圧縮できた。

## II 第 22 回大会(駒澤大学)について 2020 年 6 月 6 日(土)、7 日(日)予定 (別紙)日本 NPO 学会 第 22 回大会実行委員会の設置と委員会委員長の報告

- ・李・第 22 回大会(駒澤大学)実行委員長からのメール(20190629)より作成
- ・実行委員のうち、非会員は部会を企画していただくための実行委員であり、報告審査には関わらない。
- ・「今回は、出会いとより深い思考へと導くデザインと企画力を前面に出す大会にしたいと考えています。オルタナティブ社会の実践者たちによる企画、財団プログラムオフィサーたちの企画、地域に開放する学会マーケット、触媒型展示とワークショップ、本場本家の座禅体験などなど、従来にないような企画にもチャレンジしていきたいと思います。」
- ・「9 月に最初の実行委員会を開催したい」

### Ⅲ 第 22 回大会(駒澤大学)以降の大会開催について

・東日本大震災 10 周年にあたる第 23 回大会は、石田・西出・岡田会員のご尽力により宮城大学(または東北大学との共催)で開催できる目途である。時期は未定。

・大会開催を依頼して断られた大学(順不同)、( )は開催できない理由

宮城大学(できれば東日本大震災 10 周年と区切りの年に開催したい)

北海学園大学(学部再編等の準備のため余裕がない)

東海大学(会員 3 名・2 学部、学部が異なり互いに交流がない、新設学部のため完成年度まで余裕がない)

神奈川大学(新校舎移転等のため余裕がない)

高崎経済大学(会員 1 名のみで他に大会業務を担当できるものがない)

静岡大学(退職が近く担当できない)

静岡県立大学(退職が近く担当できない)

学習院大学(任期制のため担当できない)

城西国際大学大学院(大会開催できる十分な教室がない)

産業能率大学(大会開催できる十分な教室がない)

・運営委員長就任以前に打診して断られた大学(順不同)、( )は開催できない理由

専修大学(大会開催できる十分な教室がない)

法政大学(大会開催できる十分な教室がない)

早稲田大学(研究所の活動とは異なる)

・第 24 回大会以降の開催校についていまだ打診はしていない。少なくとも、東京・関東地区について開催校を見つけるのは容易ではない。

・今後、新たな開催校の開拓、現理事への自大学での開催依頼、自大学で開催できる理事の選定、2 回目の開催等、考慮する必要があるのではないか？